

独自テーマ科目 「あおもりの教育Ⅰ（環境）」

瀧本壽史

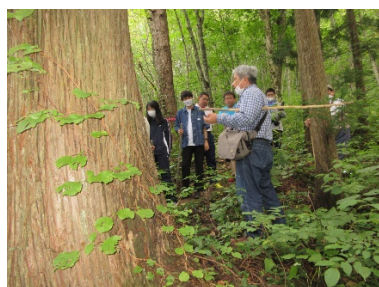
本科目は、青森県の課題解決のために、青森県教育委員会から要望のあった、「環境教育」と「健康教育」の中の一つであり、令和2年度からは「インクルーシブ教育システムの理論と課題」が加わっています。

本科目の特色は、オール弘前大学の教員での授業と、フィールドワークにあります。令和2年度は地域戦略研究所教員による「持続可能な開発 再生可能エネルギー—地下資源と海洋・風力エネルギー」、教育学部教員と理工学部教員による「青森の自然環境—自然地理学的・地学的アプローチ」、人文社会科学部教員による「青森の社会経済環境に対応した地域活性化策」、白神自然環境研究センター教員による「白神山地の自然—植物群落と動物—」など、多様な側面から青森県の環境を考察しました。また外部講師として、むつ市ジオパーク推進員による「下北ジープパーク—下北の自然と人びとの生活—」、青森県水産総合研究所職員による「青森の海と水産研究最前線」の講義も加え、自治体による環境への取り組みにも目を向けています。このほか、授業中に質問できなかったこと、分からなかったこと、もっと知りたいことなどを、授業終了後に各先生方にメールで個別に質問できることも本科目の特色の一つと言えます。

フィールドワークでは、これまで、弘前大学及び弘前公園周辺、津軽ダム、白神自然観察園、岩木川水系、十三湖と十三湖漁協、などの観察・訪問を行いました。

受講生の皆さんは、このように多岐にわたる授業やフィールドワークを通して学んだ「あおもりの環境」を、現場の教育活動にどのようにして活用していくかをレポートにまとめることとなります。小・中・高・特支の校種により、また教科などにより様々な指導計画が提出されてきます。総合的な探究の時間、教科的アプローチ、防災教育、ふるさと学習、6年間または9年間を通したテーマ学習、地域発信・PR、新聞づくり、などユニークでありながらも本質を捉えた内容のものばかりです。各レポートをもとにした院生同士の議論も白熱したものになっています。

インプットの講義形態を取りつつも、常にアウトプットを意識しながら受講できる授業であり、専門的かつワクワク感たっぷりの授業科目です。



白神自然観察園（令和2年度）



弘前公園（令和元年度）



津軽ダム（平成30年度）